

郊外団地・商店街における
共生空間づくり
—inみさと団地—

2020年1月14日 最終報告会

学生13名

目的

- 団地の中の商店街がシャッター化してきて活気が薄れてきているので、商店街に子供たちが来たら活性化するのは？
- 商店街で地域イベントをすることによって、交流を深め、地域の活性化につなげる。

前期からの 変更点

- ・新型コロナウイルスの影響におけるみさと団地主催のハロウィンイベント中止



地域住民や子どもたちが楽しめる空間を作りたい

- ・ **イベントスペース・イロトリドリさんとの連携によるハロウィン企画として実施**

(NPO法人To Going Concern for Women運営)

- ・ 企画の変更⇒独自イベントチームの“お面づくり”企画をベースに、感染症対策と関連付けた内容へ

ハロウィン企画

「お家でハロウィン
お面づくり」

【ハロウィン×感染症対策の学び フェイスシールドを活用したお面づくり】

イベント内容

イロトリドリさん
連携イベント計画



10月16日
第一弾企画
(お面キット配布)



10月31日
第二弾企画
(お菓子配布)

- 告知・広報チーム
- ハロウィンお面キットづくりチーム
- お菓子詰め合わせ作成チーム

プロジェクト 実施までの コロナ対策

【告知・広報チーム】

- ・ アプリで共有しながら個人で作成
- ・ ポスターに「感染症対策になること」を載せる

【ハロウィンお面キットづくりチーム】

- ・ 作業スペースのアルコール消毒
- ・ フェイスシールド、マスクを着用したキットの配布

【お菓子詰め合わせチーム】

- ・ 手袋、マスクの着用
- ・ 作業前後の手と机のアルコール消毒
- ・ コロナ対策を促すメッセージカード

告知・広報チーム

学生4名

内容

ポスター作成

- Facebook用
- 当日用

ポイント

子どもに向けた
ポスター

HOME CRAFT

2020/10/16 (FRI)



お面作り
お家でハロウィン

お面を付けて10月31日にイロトリドリに行くと
おかしがもらえるよ

配布場所：商店街内イロトリドリ

WEAR YOUR BEST HALLOWEEN MASK



文京学院大学

埼玉県三郷市彦成
3丁目センターモール商店街
7-2-105

お家でハロウィン

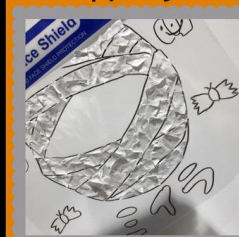
2020/10/16(Fri)10:00~15:00

感染症対策にも使えるお面作り



お面キットを先着20名様に無料配布

イメージ



31日にお面を付けて
イロトリドリに行くよ
おかしがもらえるよ
たのしく感染症対策を
しよう!

配布場所：みさと団地内イロトリドリ
埼玉県三郷市彦成3丁目
みさと団地内センターモール内
7-2号棟 104・105号室



文京学院大学

ポイント

2種類のポスター

11:00~15:00

おかし配ってます

16日のお面をつけてきてね



お家でハロウィン

2020/10/31(Sat)11:00~14:00

10月16日にお面をもらっていたら
イロトリドリで

おかしがもらえるよ

イメージ



たのしく感染症対策を
かんせんしょうたいさく
しよう!



配布場所：みさと団地内イロトリドリ
埼玉県三郷市彦成3丁目
みさと団地内センターモール内
7-2号棟 104・105号室

文京学院大学



チーム内の ふりかえり

○良かった点

- ・ 期日に間に合った
- ・ デザイン
- ・ 2種類作れたこと

○反省点

- ・ 事前告知の足りなさ
- ・ 宣伝方法

ハロウィンお面キット づくりチーム

学生4名

第一弾企画 準備

1) お面キットの作成

キット内容物の選定、買い出し、梱包

- ・子ども用20セット
- ・大人用10セット

2) お面作成時の説明書作成

学生からのメッセージ「コロナ禍のステイセーフ・ステイホームにおいて、お家の中で楽しめるイベントを体験してほしい」

- ・制作時の注意事項、保護者へのお願い
- ・31日企画への参加を促すチラシ

お面キット 作成のポイント

①キット内容物の豪華さ

- ・フェイスシールド
- ・おりがみ丸ごと
- ・手描きシール
- ・モール4本
- ・ハロウィン柄マスキングテープ

⇒ステイホーム中、家の中にある道具
だけで作成を可能に

⇒年齢を問わず自由なお面が作れる



②説明書の作成



イロトリドリマルシェ

文京学院大学 2020.10.16

お家でハロウィン お家につくれる お面キット説明書

お問い合わせ先
文京学院大学 人間学部教員 岩館豊
メール: yiwadate@bgu.ac.jp

HAPPY HALLOWEEN!!
～はじめに～

本キットは、コロナ禍(か)によって屋外でのイベントが中止となっている時世でも、お家の中でもハロウィンを楽しんでほしいという思いと、フェイスシールドに飾りつけをする体験を通じて、**楽しく感染症対策を学んでほしい**という思いのもとから、文京学院大学の学生らが一から作成しました。

中に入っているグッズたちは、制作時のお手伝い出来るような「お助けアイテム」の役割をもっています。キットの中身に限らず、さまざまな道具や飾りをつかって、世界に一つだけのハロウィンのお面をつくってみてください!

～ちゅうい～

- ・ **8歳以下のお子さまは、あんぜんのため大人のひとといっしょにつくりましょう。**
- ・ **ハサミやはものを使うときは、手を切らないように注意しましょう。**
- ・ **お面をつけたときにまわりがはっきり見えるように、なるべく目のまわりをさけて絵をかきましょう。**

- ・ 学生からのメッセージ
- ・ 子どもと保護者に向けた注意書き

デザインをポップに仕上げ、ハロウィン感を意識

むげんだい
作りかたは無限大!

ちぎった紙をはり付けたり、モールで猫耳をつくったり、ペンで絵をかいてみたり・・・
お家のなかにあるものをつかって、ガイコツやミイラ、かぼちゃのおばけなど、ハロウィンおなじみのおばけたちのお面を作ってみよう! どんなお面ができあがるかな?
(はさみやのりは、お家のものをつかってね!)

マスキングテープやシールをはるだけでもハロウィン感アップ♪



かんせい
完成したお面をつけて、
イロトリドリに行こう!

できあがったお面をつけて**イロトリドリ**に来てくれた人に、おかしをプレゼント!

お面とおかしをもって記念撮影もできます♪
ぜひお立ち寄りください。



日時: 2020年10月31日(土)
11時～15時

場所: **イロトリドリ**
埼玉県三郷市彦成3-7-2-105
NPO法人To Going Concern for Women運営

- ・ お面の作りかた
- ・ お菓子配布(10/31)に向けたお知らせ

「完成したお面をつけて、イロトリドリに行こう!」→第二弾企画参加へのアプローチ

10月16日

第一弾企画

ハロウィン
お面キット配布

○開催場所

イロトリドリ（埼玉県三郷市彦成3-7-2-105）

NPO法人To Going Concern for Women運営

○参加者

10時～12時半：学生3名

12時半～15時：学生3名

好評につき、午前中で子ども用キット配布完了

31日までイロトリドリさんスペース内に設置し、16日以降もスタッフさんの協力のもと配布→用意したすべてのキットを配布完了

10月16日の様子

- ・屋外設置で注目度UP
- ・親子のほか高齢者の方にも「孫に」と好評
- ・未就学児の子どもにも人気だった

【キットを受け取ってくれた方の声】

「無料でもらえるのはうれしい。豪華で楽しそう」
「家での気分転換になる。ありがたい」
→コロナ禍でのイベント性は十分と実感
→現地の方の「**生の声**」の重要性



チーム内の ふりかえり

○良かった点

- ・ チームワーク
- ・ キットのクオリティー
- ・ キット作成時の役割分担
- ・ 全年齢に好評
- ・ キットすべてを配布完了した

○反省点

- ・ 不十分なオペレーション
- ・ 注意事項の記載不足
- ・ 現地での目立ち方の甘さ
- ・ 制作スケジュール管理の甘さ
- ・ 10/31の企画参加へアプローチを掛けるも、結果7組しかお面を着けてこなかった。

お菓子詰め合わせ チーム

学生5名

第二弾企画 準備

1) お菓子の詰め合わせ製作

お菓子の選定、買い出し、袋詰め

- ・お面をつけてきた人（かぼちゃ） 30セット
- ・それ以外の人（袋詰め） 30セット（3種類×10セット）

2) 賞味期限リストの製作

お菓子の袋に賞味期限が記載されていないものがあったため

- ・かぼちゃ、袋 計60個

お菓子 詰め合わせ 作成ポイント

①お菓子の選定

ターゲット：**小学生**

- ・小学生が好むお菓子選定
- ・お菓子のサイズ感
- ・ハロウィンパッケージのお菓子



お菓子 詰め合わせ 作成ポイント

②お菓子の詰め方

- 内容物の偏りをなくす
- 見た目の豪華さ
- お菓子の向きを統一

⇒お菓子の中身が見えやすくする



10月31日

第二弾企画

お菓子

詰め合わせ

配布

○開催場所

イロトリドリ（埼玉県三郷市彦成3-7-2-105）
NPO法人To Going Concern for Women運営

○参加者

10時～12時半：学生4名

12時半～15時：学生3名

午前はお菓子を7個、袋詰めを24個配布
想定よりお面をつけて来ている人が少なかったため、
午後は仮装してきている子にもお菓子を配布

→すべてのお菓子を配布完了

10月31日の様子



住民の声

「こんなにもらっていいの」
「何にしようか迷っちゃうね」
→お菓子の量、種類が好評

「フェイスシールド配ってたの」
「何やってるの」
→宣伝不足を実感

多くの人々で
賑わいました！

16日に配布したキットで
作ったフェイスシールド
をつけてくれました！



10月31日の様子

Before



After



テーブルを外に出すことで存在感をアピール
声が出せない = “聴覚”以外の五感を使う必要がある



“視覚”を利用した宣伝が重要

チーム内の ふりかえり

○良かった点

- ・期限内に製作完了
- ・お菓子の種類が豊富
- ・お菓子の詰め方を工夫
- ・賞味期限を記載
- ・こどもたちに好評

○反省点

- ・年齢別のお菓子選定
- ・他班同士の情報共有不足

プロジェクト を通して 学んだこと (1)

- ・ **3チーム間の情報共有**

→それぞれの進捗・目的を共有することで不測の事態の回避

- ・ **団地の現地調査の重要性**

→住民の年齢層・活動時間帯などを調査できていればより住民に寄り添った内容を作れる

- ・ **企画の多様な宣伝方法を考える**

→大声で宣伝できない中で、遠くからでも何をしているのかがわかるような視覚へのアプローチが重要。また「何日に何を行うのか」という情報をわかりやすく周知することも必要

プロジェクト を通して 学んだこと (2)

・コロナ禍における地域イベントの意義・可能性

【「経験」の共有を通じた楽しみ方を学ぶ機会に】

→お面制作というツールを通して、世代を問わず共通した内容の遊びを体験できた。コロナ禍で顔を合わせた直接的な関わりを避けなければならない状況下では、空間の共有より経験の共有を重視したイベントが必要であり、**新たな地域のつながり**を確認することができた。

→コロナ禍における孤独感の解消は対面コミュニケーションに限らず、本プロジェクトのように「モノ」を介しても行えるのではないか

ご清聴ありがとうございました